

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 30 回会合

ご注意：

- ご参加いただいた方はすべて議事録にお名前とご所属が掲載され公開されます。
- ご発言の際は以下をご了承の上ご発言ください。
 - 本会合での発言内容はすべて録音・録画されたうえで公開されます。
- ビデオをオンにされますと、ミュートしていても顔映像が録画公開される場合があります。

開催日時： 2023 年 1 月 30 日(月)17:01-19:11

開催場所： オンライン開催

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者（計 18 名、五十音順・敬称略）：

石田 壮一	NTT	玉置 奈那	総務省
加藤 幹之	MK Next	野村 美佐子	支援技術開発機構
上村 圭介	大東文化大学	浜田 忠久	JCAFE
河内 淳子	IGF MAG	堀田 博文	JPRS
木村 孝	JAIPA	本田 聖	個人
実積 寿也	中央大学	前村 昌紀	JPNIC
Suga Yuji	Internet Initiative Japan Inc.	森口 友里	株式会社インターリンク
高松 百合	JPRS	森下 大	総務省
立石 聡明	JAIPA	山崎 信	JPNIC

司会進行： 加藤 幹之

議事録作成：山崎 信

資料：

1. [IGF 2022 報告会プログラム案\(1/30 版\)](#)

アジェンダ：

1. 本日の打合せの目的確認 [5 分]

- IGF2023 ホストである日本政府としての準備状況の進捗報告および共有
- IGF MAG からの報告
- 日本 IGF タスクフォースからの報告
- IGF 報告会について
- IGF2023 広報活動の進捗状況

2. 前回議論の振り返り [5 分]

- 第 29 回会合の概要：[第 29 回アジェンダ案+議事録案](#)

3. 宿題の進捗確認 [5 分]

[IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム todo 一覧表](#)を参照のこと

4. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告（飯田） [10 分]

- 飯田さんおよび同部署の方が欠席のため、スキップされた。

5. IGF MAG からの報告（河内） [10 分]

- 主に今後の MAG のスケジュールについて共有された。

6. 日本 IGF タスクフォースからの報告（前村） [15 分]

- 1/10 に開催された第 3 回運営委員会、および 1/31 期限の IGF 2023 のテーマ提案の進捗について共有された。

7. 今後開催するイベント／IGF 報告会について [10 分]

- 会場決定（エッサム神田 2 号館 601）
- 案内済み(1/19)
- 発表者およびプログラム編成：[IGF 2022 報告会プログラム案\(1/30 版\)](#)
 - 主にパネルディスカッションの方向性および内容について議論された。
- IGF 2022 報告会は活発化チームが主催することとなった。

8. IGF 2023 の広報（活発化チームとして） [20 分]

- 特に進捗なし

9. 本日の議論を受けた Todo 確認 [5 分]

- IGF 報告会
 - 「IGF とは何か？」部分については、事前にビデオを案内する
- IGF 2023 の広報

10. 次回打合せについて[5分]

- 次回アジェンダ（たたき台）
 - IGF2023 ホストである日本政府としての準備状況の進捗報告および共有
 - IGF MAG からの報告
 - 日本 IGF タスクフォースからの報告
 - IGF 報告会の反省
 - IGF2023 広報活動の進捗状況
- 次回打合せの開催時期（3週間おき開催が原則）
 - 候補日時：通常サイクルだと2月20日となる所、チェアが出席可能な、2月27日（月）17-19時としたい→異議なし、27日とする

11. その他

1. NRI としての連絡先

- NRI としての連絡先は活発化チームが担当するか、それとも日本 IGF タスクフォースに引き継ぐか？
 - NRI として日本からの発信ができていない。
 - タスクフォースは日本での IGF 開催にあたり設立された時限的な組織であり、現時点で NRI として動くことは想定されていない。
 - IGF 2023 後の活動をどうするかは白紙。
 - そのため、活発化チームしか連絡先を担えるところはない。
- 最終的にはタスクフォースに移るとしても、当面活発化チームの有志が手伝えないか？
 - その場合、今でも活発化チームの何人かに NRI の連絡が来ており、（例えば3人程度の）グループで共同で対応するのが良いと思う。
 - 昨年9月に来日した IGF 事務局も、複数名での登録は問題ないとの意見であった。
 - 対 NRI リエゾンとしての有志を募ったところ、ボランティアの申し出があり特に反対はなかった。さらにボランティアの希望があれば追加していくので、応募してもらうこととなった。

2. 今後の活発化チーム会合で扱う内容および開催頻度

- 今後、管理・連絡的なことに加え、（できれば）毎回、1時間程度具体的なテーマについて意見交換する場とするのはどうか
 - 活発化チームの目的とずれているのではないか

- 我々の知見を高めることは、本チームの目的ではないのでは。
- 知っている人に知っているテーマを話しても、IGF への集客につながらないのでは。
- 具体的なテーマについての意見交換により、新しい人を集める機会となるのではないか
 - IGCJ の経験では、テーマが尽きて人が来なくなった。喋れる人が喋る、では人は来ない。
- 管理運営 1 時間、具体的テーマ 1 時間議論の想定
 - この半年で NRI 立ち上げをしなければならぬことを考えると、管理運営に関する議論の時間が 1 時間では足りないのでは。
 - 管理運営の議論の場と、具体的なテーマについての意見交換の場は別の日程としてはどうか。
- 必要であればチャーターも改定し、引き続き次回、次々回会合で議論して 4 月の会合から新しいフォーマットとしたい
 - テーマと登壇者を探してきて交渉したりする部分の労力が最も大変だが、そこを事務局に全部丸投げはすべきでない
 - テーマ・登壇者探しのための小委員会を作る必要がある

活発化チームの会合も、3 週間毎ではなく、原則 1 か月に一回程度としたい

3. 活発化チーム会合の主催

- タスクフォースに JAIPA、JPNIC がメンバーとして入った今、活発化チーム会合の主催が両団体のままでよいか
 - 経緯も含め検討し、次回会合で議論する
 - 両団体について、「主催」の代わりに別の用語「共催」「協賛」「後援」などを検討してもよいのでは

以上